

[巻頭言]

阿部 聖教授, 安福恵美子教授の退職記念号に寄せて

鈴木 誠 (地域政策学部長)

Preface of the Retirement Commemorative Issue of Professor Sei Abe
and Professor Emiko Yasufuku

Makoto Suzuki

お礼の言葉

2023年度末をもって、阿部 聖先生と安福恵美子先生が本学を定年退職されます。阿部先生は地域政策学部の設置準備の段階から本学部にかかわってこられました。また、安福先生は本学部開設1年後の2012年4月から本学部に着任され、教育研究活動に取り組んでこられました。お二人のお力添えにより、本学部は愛知大学の中で特色ある教育研究活動に取り組む学部として評価をいただけるようになり、多くの卒業生を社会に輩出できるようになりました。お二人の先生に、心よりお礼を申し上げたいと存じます。

ここで、お二人の先生のご紹介をさせていただきます。はじめに阿部先生をご紹介します。阿部先生は中央大学大学院商学研究科博士後期課程を終了後、他大学での教育研究に携われた後、2001年4月1日に愛知大学経済学部教授に着任されました。その後、2011年4月1日の地域政策学部開設と同時に移籍され、今日まで地域政策学部教授として教育研究並びに社会活動に携わってこられました。この間、愛知大学評議員、豊橋学生部委員長、豊橋運動部長協議会会長、愛知大学中部地方産業研究所長を歴任され、2020年度から3年間にわたって地域政策学部長(学校法人理事を兼務)を務められました。

歴任された学内の要職はこれに尽きません。数えきれないくらいといってもいいほどでしょう。それらに加えて静岡県掛川市、愛知県豊川市や新城市などの自治体の審議会会長を務められ、本学の設立理念の一つである「地域社会への貢献」を体現されて

きました。学内外の様々な業務をこなされながらも、先生が一番力を入れてこられたものは研究活動と教育活動であったと思います。先生のご専門は「日本経済史(近現代)、日本エネルギー産業史/東海地域産業史/空襲史」です。この領域において単著1冊、共著37冊を刊行され、さらに学術論文・調査研究報告書を50本発表されました。多数にわたる優れた研究の中には、私もご一緒させていただいた研究活動があります。

特に印象深い研究が愛知大学特別重点研究「南海トラフ大地震を見すえた自然大災害と地域連携を踏まえた大学BCPの総合的研究」です。2017年度から2022年度まで6年間(当初5年であったがコロナ禍で1年延長し6年)にわたって全国各地の大学や自治体、企業、NPO法人等を訪れ、災害対策の実態を調査する機会をいただきました。先生はこの共同研究の代表者を務められ、調査した大学等の研究者や実務家、行政からいただいた多方面に及ぶ知見を反映させた研究報告書を完成されました。

阿部先生は、この研究成果を本学のBCP策定過程にフィードバックさせることを強く意識され、本学BCPの完成・施行に大きく貢献されました。

さらに、こうした精力的な研究活動の成果がもつとも力強く還元されたのが本学部の教育活動です。先生はよくゼミ生をつれて東海4県の地場産業の産地企業を訪問され、産業集積の仕組みや歴史的社会的意義を、企業経営者や産地関係者から学生たちが直に学ぶ機会を多数用意されていました。阿部ゼミの学生からは「先生は変わった会社に連れて行ってくれるんですよ」という話を聞いたこともありまし

た。私が印象に残っている講義はインターンシップ
特殊講義です。その成果は毎年報告会と『『イン
ターンシップ』研修報告書』として学部構成員に還
元されてきました。受講生は職場と教室を行き来し
ながら企業研究をやり遂げていきます。学生たちの
責任ある発言と行動力の背景には、先生の丁寧な指
導が間違いなくあることを実感しました。先生のご
指導に厚くお礼を申し上げたいと思います。

続いて、安福恵美子先生をご紹介します。安
福先生は南山大学外国語学部をご卒業後、金城学院
大学大学院文学研究科社会学専攻修士課程を修了さ
れ、その後、他大学での教育研究に携われた後の
2012年4月1日に地域政策学部へ教授として着任さ
れました。安福先生のご専門は「観光社会学／観光
政策、観光防災」です。この分野での研究を通じ
て、本学部では「ツーリズム政策論、ツーリズム文
化論、世界遺産研究、地域社会資源論研究」の講義
をご担当頂きました。

先生は先の専門分野を通じて単著2冊、共著14冊
を刊行されるとともに学術論文及び調査研究報告書
を66本発表されました。安福先生と初めてお目にか
かったのは、2011年に本学部が開設され新任教員が
一堂に会した際でした。新設の地域政策学部は、学
内から移籍をされた教員と他大学から移籍された教
員からなりましたが、安福先生と私は後者に当たり
ます。他大学から移籍された教員には本学部知人
はいませんので、誰もが緊張した面持ちで新任教員
の挨拶の順番を待ち説明会での話に耳を傾けていた
ように思います。そんな雰囲気を一早く察して私
に語りかけてくださったのが安福先生でした。先生
が朗らかに語りかけて下さったおかげで、場が和
み、お互いに自己紹介や担当講義の紹介などいろ
んな情報交換ができたように記憶しています。

先生はよく学生たちに「私の講義は旅行会社に入
るためのものではありません」と語りかけていま
した。観光研究を通じて国内外の社会に表出する光と
影を学生たちに講義し、観光に関する表面的な認識
に留まらず、観光と地域社会との関係を問い直しま
ながら新しい観光（オールタナティブ・ツーリズム）
を学生たちに講義されていました。ツーリズム文化
論は奥が深い学問、という言葉が学生から聞いたこ

とがありますが、間違いないと実感しています。

安福先生ほど、地域政策学部の教育理念である
「地域を見つめ、地域を活かす」を、ゼミ活動を通
じて実践された先生はいないのではないかと感じて
います。先生はゼミ生と各地の観光政策を調査研究
され、その成果を調査報告書にまとめるよう学生指
導をされ、その後には学生たちが調査先の自治体へ
出向き、分析結果を報告して観光振興の在り方を政
策提言するなど大変厚みのある調査研究指導に取り
組まれてきました。対象都市には愛知県蒲郡市や三
重県伊勢市などが含まれます。さらに、豊田市足助
地区における町並み調査では、地元の観光協会の協
力を得て地域資源や観光資源としての町並み活用の
あり方を、さらに豊橋市葦毛湿原では地域資源とガ
イドの関係性について、学ぶ機会を学生たちに提供
も頂きました。コロナ禍で現地調査が難しい時でも
教育の手を休めることなく、北海道札幌市の旅行会
社に対して新型コロナウイルスによる影響調査をオン
ラインで行うなど、ゼミ教育に情熱を注いでこれ
らました。

以上のように、阿部先生、安福先生は、ご自身の
専門分野の研究を精力的にこなしながら、その成果
を学界や実社会に還元されるとともに学部教育にも
惜しむことなく活用され、学生たち一人ひとりを育
て上げて下さいました。お二人の教育姿勢をふり
返ると、本学部の学位授与方針（ディプロマ・ポリ
シー）を一つ一つ確認しながら取り組んでいただけ
たのではないだろうか、と思わずにはおれないほど
です。お二人の先生からは大学における教育研究者
としての研究責任や教育責任の大きさ・社会的意義
をたくさん学ばせていただきました。文末ではありませんが、あらためて感謝の意を表したいと存じま
す。そして、阿部先生、安福先生のご健康とご多幸
を、学部教員を代表して祈念いたします。